

## 直方発祥の高取焼

直方発祥の高取焼が、2024年3月26日付けで、県知事指定特産工芸品として認定されました。これは、福岡県内で製造される郷土色豊かで、一定の伝統性を有する民芸品や工芸品を県知事指定特産工芸品として指定し、光をあてることで伝統産業の振興に取り組むためのもので、高取焼の指定により36品目となりました。

そんな高取焼の歴史は古く、1606（慶長11）年に陶工・高取八蔵によって鷹取山麓の筑前側に開かれました。また、直方にかつて存在し、最も古い時代の「宅間窯」と「内ヶ磯窯」の二窯で焼かれた高取焼のことを「古高取」と呼び、それぞれの特徴として、宅間窯は李朝風の日用雑器としての比重が高く、内ヶ磯窯は李朝様式の割竹窯とは異なる大型の連房登窯のため、多彩な茶陶が焼かれていました。

高取焼は、遠州七窯\*の一つとされ、京都伏見奉行の小堀遠州のもとに派遣されていた高取八蔵・八郎右衛門の父子が製した茶器が、遠州より激賞を受け、遠州が全国に七窯を選り出す際、高取焼が一位に選定されたといわれています。

### ※遠州七窯

志戸呂焼（遠江国）、善所焼（近江国）、高取焼（筑前国）、上野焼（豊前国）、朝日焼（山城国）、古曾部焼（摂津国）、赤膚焼（大和国）

### 参考文献

『直方市史 上巻』N219ノ

『「織部好み」の謎を解く』小山巨/著 N751ノ

## ふるさと再発見!講座 「高取焼を知ろうー茶碗作り体験と古高取の歴史ー」

時間:10時30分~12時00分 / 場所:ユメニティのおがた会議室

定員:20名(小学5年生以上で両日とも参加できる方)

### ① 9/8(日)「茶碗作り体験」

指導:古高取を伝える会

料金:2000円

持ってくるもの:雑巾、汚れてもいい服装、  
必要な方はエプロン

### ② 10/13(日)「高取焼の名品について」

講師:九州歴史資料館学芸員 遠藤啓介さん

料金:無料

※9月10日(火)より参加者の追加募集を行います。15名(先着順)

受付期間:8/6(火)~8/25(日)※先着順

申込方法:図書館カウンターまたは電話にて受け付けます(☎0949-25-2240)

【基本情報】 ◇直方市指定文化財 《所在地》直方市感田及び植木 《指定年》1988年3月



感田の堰跡



植木の堰跡

筑豊を流れる遠賀川は古代稲作の始まった川であり、昔は大切な交通手段として年貢や石炭を運び、流域の田畑を潤し、人々はその恩恵を受け生活を営んできました。しかし改修工事で堤防が築かれる以前は、洪水を繰り返し人命や作物を奪ってきた川でもありました。

筑前領主となった黒田氏は、福岡築城やその城下町整備のため、また江戸城など御手伝普請のため、遠賀川上流の山の本を大量に伐採しました。その後植樹がなされなかったため、遠賀川は雨が降れば洪水、日照りの時は早魃と、災害が繰り返されるようになります。江戸時代には20回も大きな水害が記録されています。流域の村々は、洪水から村を守るため、堰を作りました。現在は片方しか残っていませんが、向かい側に同じような石垣を作り、その間に板をはめて水が入ってくるのを防ぎました。同じような堰が、尾崎口、境口、頓野口にもありました。

参考：「直方市バーチャルミュージアム」 <http://nogata-virtualmuseum.jp/chronology.php>

R6 7/24 アクセス

「遠賀川 もっと知りたい遠賀川」 NPO 法人遠賀川流域住民の会/編 文字の花書房/発行

## はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

『筑前國続風土記』 貝原益軒（篤信）//編著 NL291ケ

江戸時代の筑前の地誌。益軒は1688（元禄元）年に藩主の編纂許可を得て、甥の貝原好古と共に郡内を巡り、土地の人から聞き取りをしました。好古はその資料に過去に収集した資料を加え、14郡の草稿を作成し、好古亡き後、それを益軒と高弟竹田定直が校正、益軒が校閲し、1709（宝永6）年、益軒80歳の時に藩主に献上されました。提要2巻、郡記21巻、古城古戦場記5巻、土産考2巻の31巻からなります。内容は、群高、村高、人口、産業、山野、河川、寺社解説、歴史など多岐にわたります。土産考の鞍手郡の項目には石炭が取り上げられており、当時から村人に利用されていたことがわかります。福岡県の歴史を知るうえで、欠かせない基本的資料です。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内

TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902